

# 農業・農村と

## 地域再生

Serial 4

南紀州のほんまもん体験

今回は、体験教育旅行の受入れて地域振興を図る取り組みを取り上げます。体験教育旅行は、グリーンツーリズムの教育面の機能を旅行商品化し、地域の住民が農家民泊を伴った農林漁業体験や自然体験などで子どもたちを受け入れる着地型観光事業です。民泊での宿泊交流体験により、子どもの自立心や協調性、人間性や規範意識等の「生きる力」を育み、また農村の受入側にとっては、副収入確保や高齢農家などの生きがいを高め、住民の誇りの回復につながる」と評価されています。

和歌山県の紀南地方は、「空青し山青し海青し」と歌われ、豊かな自然環境に恵まれた地域です。1999年に開催された「南紀熊野体験博」をきっかけに地域特性を活かした体験交流型の観光が広がっていきまし

た。白浜町日置川地域(旧日置川町)では、市町村合併を控えた2004年、交流人口の拡大や地域の活性化を目的に「大好き日置川の会」を設立し、体験交流による活動を始めました。農林漁業や地場産業などのありのままを体験する「ほんまもん体験」の提供をスタートし、また、2008年の「子ども農山漁村交流プロジェクト」(国事業)への参加で、民泊会員を徐々に増やし、宿泊を伴う学校を受け入れる体験教育旅行が拡大していきまし

た。2011年には、事業を持続的に行うために組織を法人化し、(一社)南紀州交流公社(以下、公社)を設立しました。事業発足当初は役場内で行っていた受入事務は廃止され、事務所も旧農協支所の建物を借りて移転するなど、経営面の苦労がありました。住民主体の内発的な取組みを続けてきました。「民泊」と「ほんまもん体験」を基軸に、旅行会社や学校にプロモーションを行い、体験教育旅行の予約受付・手配・精算等にかかる旅行会社との取引を一括で行うとともに、地域内の体験インストラクターや民泊家庭との連絡調整、学校の引率教員や旅行会社との業務連絡、さらに、さまざまな手配を引き受け、旅行をトータルコーディネートします。また、年に一度実施する民泊研修ではアドバイザーを迎え、体験教育の意義や目的を再

確認するとともに、衛生対策や安全面に最大限配慮しながら受入れを行います。このような丁寧な活動が功を奏し、毎年来訪する学校や家族と一緒に再訪する子どももみられ、コロナ禍の激減を乗り越えた2022年には、体験の受入人数が5060人に増加しました。

南紀州のほんまもん体験は、「体験を通して地域や人を知ってもらい、来訪者の心の中にいつまでも残る」ことを目的にしています。都市部から大規模校が日置川地域を訪れる際には、臨時便の特急電車が、普段は停車しないJR紀伊日置駅に臨時停車し、地域は子どもたちや民泊受入の声でにぎわいます。また、小人数で過ごす民泊家庭では、お互いに親しみがわき、飾らない会話で交流します。このような住民主体の「地域振興」の取組みは、過疎・高齢化する地域の活性化だけでなく、子どもたちに新しいふるさとを提供し、都市と農村の共生の面からも意義があることだと考えます。

### 和歌山大学の学びを浪切で 社会人のためのキャンパス岸和田サテライト

4つの特徴

#### 1 交通アクセスが良好

- 南海岸和田駅から徒歩約15分
- 教室のある南海浪切ホール地下に無料駐車場を完備
- 阪神高速湾岸線岸和田南インターから約1分

#### 3 働きながらスキルアップ

- 原則として平日夜間か土曜日に開講
- 経済社会の変化に対応した専門的講義を受講できる
- 多様な受講生(社会人、和歌山大学の学生)と一緒に学べる

#### 2 選べる学習制度

- 18歳以上(高校生は除く)であれば、どなたでも受講可能な「学部開放授業受講制度」
- 経済学研究科の授業を受講できる「大学院科目等履修制度」

#### 4 割安な学費で、1科目から受講できる

- 学部開放授業の聴講料11,000円(1科目)

和歌山大学岸和田サテライト TEL & FAX 072-433-0875

岸和田サテライト

検索